

読解表現力の高まりを実感させる指導の工夫

－ 1枚ポートフォリオの活用を通して－

指導主事 高澤 正男

I 研究の趣旨

1 読解力と表現力における課題

従来から、国語科の授業の中で、読解力を高めることをねらった授業や表現力を高めることをめざした授業は行われてきた。

しかし、授業を通して、生徒自身が自己の読解力や表現力の高まりをどの程度自覚できていたかは曖昧な部分が多い。生徒一人一人が、自己の変容を自覚し、自信を持ち、それが次の学習への意欲付けとなっていたのかも判然としない。学習はしているが、何がどの程度できるようになったのかが分からないのである。教師にしても、生徒にどのくらいの力を付けたのかが明確ではない。以前から、このような課題があったのではないかと考えられる。

2 読解表現力の必要性

2003年にOECDが行った生徒の学習到達度調査(略称PISA)は、教育界に大きなショックを与えた。数学や理科がトップクラスであるのに、日本の高校生の読解力が国際平均並であることが明らかになったからである。

従来我が国で行われてきた読解の授業は、文章の内容や登場人物の心情を理解することが主だった。一方、PISAだけでなく、国際的に求められている読解力とは、「論理的に読み、読んだことについて自分で考え、読み取ったことを根拠にして自分の意見を表現する」ことである。表現することも含めて読解力としているのである。

PISAの読解の一部としての表現は、従来我が国で行われてきた表現とも違う。なぜなら、今まで我が国で行われてきた表現は読解と切り離されて単独で行われることが多かったからである。従来の読解だけをやっても、従来の表現だけをやっても国際社会には通用しない。国際社会における読解力とは、①正確に読み②読んだことを根拠にして自分の意見

を表現することである。この二つが揃っていなければ、国際的な読解力とは言えない。したがって、読解力と言うより「読解表現力」と言った方がPISAで求められているものに近い。この力の育成は、従来の理解中心の読解指導や読解と切り離された表現指導だけでは難しい。また、学習指導要領においても、例えば、「読むこと」に「根拠を明確にして自分の考えをまとめること」(中2)等が加えられている。

これからは、読解と表現(書く、話す・聞く)を関連付けた新たな指導観に基づき、国際社会に通用し、実生活や各教科の基盤となる力、すなわち「読解表現力(読解を根拠に表現する力)」を育成する必要がある。

3 研究の方向性

前述した実態や課題を踏まえ、以下の二つについて、本研究を行うこととした。

- 生徒に、授業の中で読解表現力の高まりを実感させる一つの方法として、1枚ポートフォリオを活用した実践について、考察を加える。
- 実践の結果をもとに、読むことの学習において1枚ポートフォリオを活用した基本的な授業パターンと指導のポイントを提案する。

II 研究の概要

1 研究の内容

(1) どのような教材を使うか

読解表現力の高まりを実感させる第1段階の教材として詩がふさわしい。小説や物語ではページをめくることになり、読解の分量としては多い。また、短歌・俳句では短すぎる。しかし、詩であれば、みんな一つ一つの作品を見渡すことができるため、思考が拡散せず、学習が一つの方向に向かっていきやすい。したがって、思考を深めていくことができる。

(2) どのような準備をするか

教材研究をもとに、読むためのキーワードを絞り込み、一つのキーワードを見付けることが、国語教師の眼力であると考ええる。1単位時間の授業でやるべきことを絞り込み、生徒に深くじっくりと考えさせるための発問を絞る。そのために、教材の本質に迫る深い教材研究をいかに行うかが重要である。

(3) どのような手立てを講じるか

生徒が学ぶことの意味を実感できないのは、どのような学習においても学習による変容は確実に存在しているにもかかわらず、それを可視的に、しかも具体的な内容を伴って確認できないからである。

以下に紹介する1枚ポートフォリオを有効に活用すると、生徒は自らの変容を感じ取ることができるようになる。

① 1枚ポートフォリオの定義

1枚ポートフォリオとは、堀哲夫氏が開発したもので、以下の方法をいう。

教師のねらいとする学習の成果を、学習者が1枚のシートの中に学習前・中・後の学習履歴として記録し、それを自己評価させる方法

② 1枚ポートフォリオの特長

1枚ポートフォリオの特長は、以下のとおりである。

ア 生徒に学ぶ喜びや学ぶことの大切さを感じ取ってもらうことができる。

生徒を変えるのは生徒自身にはかならない。生徒が学習によって自分自身の変容を実感できる時、学ぶことの重要性を自覚することができる。

イ 生徒が、学習過程で記録したものを通して、教師自身の授業評価ができる。

これまで、授業評価はビデオに録画した内容を分析するなどの方法がとられてきた。こうした方法は、分析に時間がかかる。しかも一人ではなかなか行うことができないなどの問題を多く抱えていた。しか

し、1枚ポートフォリオであれば、生徒が書いたものを通して、授業が適切であったかどうかを判断できる。しかも、簡便である。

ウ 生徒が書いた1枚のシートの中でアとイを実現可能にする。

このシートを用いて、生徒は自分自身の学習内容を振り返ることにより学習の意味を感じ取る。教師は書かれた内容を通して授業の適切さを評価し、授業の軌道修正を図っていくという形成的評価が可能になる。

エ 最小限の情報で最大限の効果を上げる。

教育現場の多忙化は解消されていない。意図的、計画的にじっくりと行うことの大切さは分かっているが、実際には時間をかけて評価を行うことが困難な状態が続いている。

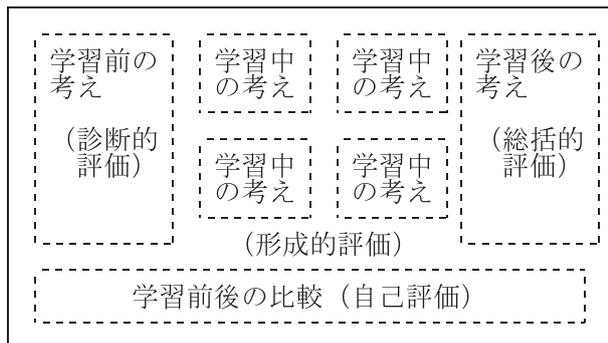
教育実践において極めて重要なこととして、教師にとって単純で利用しやすいという点が挙げられる。教師が最も望む最小限の情報を効率的に得て、それを最大限に活用するということである。

1枚ポートフォリオでは、1枚のシートを活用して行うため、情報が多すぎたり、また多種多様なものが入りすぎたりすることはない。

③ ポートフォリオ評価と1枚ポートフォリオ

これまでも、ポートフォリオ評価は行われてきた。1枚ポートフォリオがそれと大きく異なっているのは、学習過程で得られる情報をすべて得ようとするのではなく、必要とする情報に対する回答を1枚のシートの中に求めていることである。単元が終了すると、学習の全体構造が一目で把握できるようになっている。これは、ポートフォリオは一定の厚みを持った冊子状のものという既成概念を覆したものである。その背景には、使いこなすことのできない不必要な情報は持たない、得た情報は最大限に活用するという考え方が存在する。

1枚ポートフォリオでは、1枚の紙面を次のような枠組みで構成する。



2 研究の実際

1枚ポートフォリオ(図1)を活用した実践として、本研究では、中学校第3学年での詩の指導例を紹介する。この実践は、堀哲夫氏らによる理科での理論と実践を国語科に応用したものである。

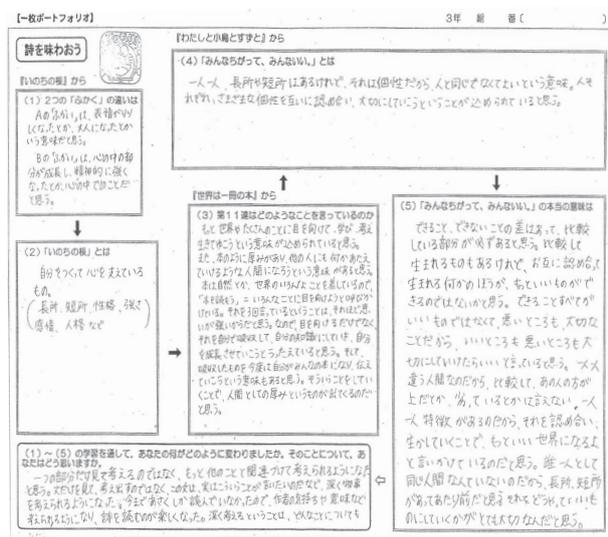


図1 1枚ポートフォリオ(A3判)

(1) 実践の概要

『いのちの根』の読み取りでは、詩の中の「ふかく」を読みキーワードとして取り上げ、更に題名に戻って「いのちの根」とは何かを問う。『わたしと小鳥とすずと』の学習では、前時の課題(「みんなちがって、みんないい。」とは)を確認し、「みんなちがって、みんないい。」とはどのような意味なのかを問題にし、最後に、この二つの詩の学習を通して、あなたの何がどのように変わったか、そのことについてあなたはどのように思うかを生徒に尋ねる。

(2) 指導計画

① 単元名 詩を味わおう

『いのちの根』『わたしと小鳥とすずと』

② 指導計画

教材	時数	評価規準
いのちの根	1	「いのちの根」は、じつと耐えることで深くなっていくことを文章で表すことができる。
わたしと小鳥とすずと	1	「わたし」「小鳥」「すず」は並立の関係にあり、同等の立場であることに気付くことができる。
	1 本時	「みんな」に着目し、作者が強調している点をもとに、最後の行が意味することを考え、文章に書くことができる。

③ 本時の学習活動・内容

- 1 前時の1枚ポートフォリオの内容を聞く。
- 2 作品を音読する。
- 3 学習課題を把握する。

「みんなちがって、みんないい。」とは、どのような意味なのか。

- 4 読み取りのポイントを確認する。
 - 飛べないもの
 - 速く走れないもの
 - 音がでないもの
 - うたを知らないもの
- 5 学習課題について自分の考えを書く。
 - (1) ノートに考えを書く。
 - (2) 発表する。
- 6 個人の考えをもとに班で練り上げる。
 - (1) 班内で個人の考えを発表する。
 - (2) 班としての考えをまとめる。
- 7 全体で意見交換をする。
 - (1) 班の代表者が発表する。
 - (2) 意見交換をする。
- 8 再度自分の考えを1枚ポートフォリオに書く。
- 9 前時までの文章と本時の最後に書いた文章とを比べ、気付いたことをノートに書き込む。
 - 変わったこと
 - 深まったこと

(3) 1枚ポートフォリオの記述内容と分析

図1の記述内容を抜粋して、次に示す。

【前時】

「みんなちがって、みんないい。」とは

人間、動物、植物など、この世界に属するものすべてに、とってもいいところ、個性や特色があるということだと思う。その個性や特色は、一人一人あるいは一つ一つが微妙に違っており、それらには深い味があることを尊重した詩である。「世界に一つだけの花」にあるように、「オンリーワン」をずばりうたっている。そのわずかに違った「色」を、お互いに認め合って、これからの世界で共存していこうということを伝えたい詩ではないか。



【本時】

「みんなちがって、みんないい。」の本当の意味は

できること、できないことの差はあって、比較している部分が必ずあると思う。比較して生まれるものもあるけれど、お互いに認め合って生まれる何かのほうが、もっといいものができるのではないかと思う。できることすべてがいいものではなくて、悪いところも大切なことだから、いいところも悪いところも大切にしていけたらいいと言っていると思う。一人一人違う人間なのだから、比較して、あの人の方が上だとか、劣っているとかは言えない。一人一人特徴があるのだから、それを認め合い、生かしていくことで、もっといい世界になるよと言いかけているのだと思う。誰一人として同じ人間なんていないのだから、長所、短所があって当たり前だと思う。それをどうやっていいものにしていくかがとても大切なのだと思う。



【事後の変容】

この学習を通して、あなたの何がどのように変わりましたか。そのことについて、あなたはどのように思いますか。

以前までは、詩を読むことは苦手だったし、読んでそこから考えたり、見えない気持ちを読み取ったりという学習は苦手だった。でも、今回の学習を通し、また二つの詩を読んだことによって、自分の、詩に対する考え方が少しずつ変わってきたと思う。何回も読んで、読むたびにほかに見付けられることはないか、と考えながら読めるようになった。それは、ほかの人にとって当たり前のことかもしれないが、私にとっては大きいことでとてもうれしい。また、人の意見や考えを聞くことで、その詩に対する視野が広がったし、吸収することも多かったのではないか。

これから入試など、文章の読解に必要なことが、まだ少しだけ付いてきている気がする。付けた力は結果で考えると、やっとアベレージに追いついたくらいだと思うが、自分自身のみで考えると、この学習はすごく勉強になった。もう一度このような学習を行いたい。

また、事後の変容として、別の生徒は、次のような内容を記述している。

【事後の変容】

この学習を通して、あなたの何がどのように変わりましたか。そのことについて、あなたはどのように思いますか。

一つの部分だけ見て考えるのではなく、もっとほかのことと関連付けて考えられるようになったと思う。文だけを見て考え出すのではなく、この文は、実はこういうことが言いたいのだなど、深く物事を考えられるようになった。今まで浅くしか読んでいなかったのが、作者の気持ちや意味などを考えられるようになり、詩を読むのが楽しくなった。

深く考えるということは、どんなことについてもとても大切なことだと思う。深く読むと、今まで分からなかったことが分かったり、新しい発見があったりして、もっと物事を味わえるようになるので、自分のためになる部分がたくさんできると思う。そして厚みのある人間になれると思う。これからもっと多くの作品を読み、考えて、厚みのある人間になりたいと思う。

二人の生徒の1枚ポートフォリオの記述内容を分析してみると、以下のことが分かる。

- 前時よりも本時のほうが、読み取りが深く
なっている。
- 学習することの意義を見いだしている。
- 学習への達成感・満足感が感じられる。
- 読解力が高まったという自己の変容を自覚
できている。
- 読み取ったこと、自分の思いや考えなどを、
書くことを通して表現できるようになってき
ている。
- 次の学習への意欲付けが図られている。
- 班での話合いや全体での話合いに価値を見
いだしている。

このような成果は、1枚ポートフォリオだけによるものではない。着目すべきキーワードをもとにした読解学習が成立していたからこそその成果である。

以下に、1枚ポートフォリオを活用し、2年間にわたって、詩からはじめて文学的文章、更には説明的文章へと段階を踏んで学習を継続した生徒の記述内容を紹介する。

ずばり、文章力が去年と比べものにならないくらいにアップしているのではないかと感じた。前よりも詳しく順序立てて文章が書けるようになったのには自分でも驚きで、学習のかわがあったなと思う。深くつっこんで書くことができるのも、表現の幅が広がったからではないか。上手く表現できずに、もどかしい気持ちになっていたのが、今では言葉がスパーンとすぐ出てくるので、深く書けるし、スピードも上がった気がする。やっぱり表現の仕方を工夫することが文章を書くコツではないかと感じている。もっとこのような学習が増えるといいなあと思う。楽しかった。

(4) 基本的な授業パターンと指導のポイント

実践の結果をもとに、読むことにおいて1枚ポートフォリオを活用した基本的な授業の流れを、次の

ように提案する。

① 魅力的な導入を工夫する。

- ・ ワンパターンの機械的な導入にならないように、学習課題へと直結し、意欲を喚起するような工夫をする。

② 生徒が主体的に学習課題を把握できるようにする。

- ・ 生徒が学習への期待感と「やれるかな」という少しの抵抗感を持てるように、提示の仕方と課題の文言を吟味する。

③ 学習範囲を音読する。

- ・ 様々な音読のバリエーションを使って、課題の解決へ向けて生徒が思考できる契機、土台づくりとなるようにする。

④ 学習課題に対する自分の考えを個人でノートにまとめる。

- ・ 絞り込んだキーワードをもとに、発問を吟味し、個人でじっくりと考えさせる。その際、効果的に机間指導を行い、つまずきに対応したり全体の場での意図的指名等につなげたりする。

⑤ 個人の考えを交流し、班で練り上げる。

- ・ 個人で書いた内容を班で発表し合い、互いに意見交換を行う。ここでも、机間指導を行い、意見交換が充実するように働きかける。

⑥ 全体の場で共有し、更に練り上げる。

- ・ 挙手による指名、つぶやき、意図的指名等教師によるコーディネートを行い、班で出さ

↓
れた意見を全体場で共有し、更に練り上げる。

⑦ 学習課題に対する自分の考えを1枚ポートフォリオにまとめる。

- ・ 学習の結果、深まったり、広まったりした自分の考えをまとめる。机間指導を行い、全体で取り上げたい考えや意見を確認する。

個人から班、班から全体、そして最後に個人に戻すことで、多くの考えに触れる機会を設け、そこで出た意見をもとに自分の考えをまとめることができる。1枚の紙面にまとめることで、自分の学びの蓄積が可視化され、次の学習意欲へとつながる。読解表現力の育成には、このような積み重ねが大切である。

Ⅲ 研究のまとめ

1 研究の成果

(1) 授業のグランドデザイン

1枚ポートフォリオを活用していくと、1単位時間の授業において、どんな方法で、どのような力を育てるのかを明確に意識しなければならないという必要に迫られてくる。1枚ポートフォリオを作成することで、育てたい資質・能力（指導目標）、指導計画、評価計画が明確になるのである。また、教師がより深い教材研究を行い、授業を吟味するようになる。更に、1枚ポートフォリオの評価結果を指導に生かすことができる。実践を通して、1枚ポートフォリオは、授業のグランドデザインにもなり得ることが明らかになった。

(2) 段階を踏んだ指導の蓄積

読解表現力を育成するには、発問を絞り、一つのことをじっくりと考え、読み取りと「書く、話す・聞く」とを関連させた指導を段階を踏んで蓄積していくことが効果的であることが分かった。自分の考えの深まりを実感させ、自分の意見を述べたり、書いたりする機会の保障と充実が重要である。

(3) 国語科における有効性

小説などの文学的文章における読みの深まりは、生徒にとっては自覚しにくいものである。しかし、作品を読んで考えたことを比較させることで、読みの深まりが実感できることが分かった。この点で、国語は、1枚ポートフォリオの長所を十分に生かせる教科の一つと言えることも明らかになった。

2 今後の課題

(1) 客観的な評価

必ずしも客観的な評価にならない場合があるなどのポートフォリオ評価の短所を補うために、評価規準の検討が必要である。生徒のどのような記述内容から思考の深まりを見取るのか、学習指導要領の指導事項に対応させ、言語活動との関連から適切な評価規準を設定しなければならない。

(2) 書く時間の確保

1枚ポートフォリオを活用し、生徒の読みが深まっていけばいくほど、記入の時間が長くなり、授業時間内で書く時間を確保するのが難しくなるといふジレンマが生じる。生徒の活動時間を保障するために、更に指導内容を絞り込む必要がある。

〈参考文献〉

- 1) 子どもの学びを育む一枚ポートフォリオ評価 理科 堀哲夫編著（日本標準 2004年）
- 2) 子どもの成長が教師に見える一枚ポートフォリオ評価 中学校編 堀哲夫編著（日本標準 2006年）
- 3) 必ず「PISA型読解力」が育つ七つの授業改革 有元秀文著（明治図書 2008年）
- 4) 読解力向上に関する指導資料（文部科学省 2005年）
- 5) 中学校学習指導要領解説 国語編（文部科学省 2008年）
- 6) 言語活動の充実に関する指導事例集【中学校版】（文部科学省 2012年）
- 7) 評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【中学校 国語】（国立教育政策研究所 2011年）
- 8) 基礎日本語辞典 森田良行著（角川学芸出版 1989年）